

中学生 絆のパス交換



守る大槌中と攻める総社東中の部員たち
＝3日、岡山県総社市、吉村写す

岡山のAMD A被災生徒50人招く

津波で大きな被害を受けた岩手県と宮城県の中学生们が3日、岡山県総社市で地元の中学生们たちとサッカーの親善試合をした。被災地で救援活動が続ける岡山市の国際医療NGO「AMD A」が招いた。

招待されたのは岩手県釜石市と大槌町、宮城県南三陸町の3中学校のサッカー部員ら約50人。岡山県内からは3中学校が参加した。大槌中学校は校舎が浸水。小野永喜校長によると、生徒約290人のうち3分の2が自宅などに被害を受

け、家族や自宅を失ったサッカー部員もいるという。キャプテンの藤原可偉君(14)は「岡山の子たちに、震災で大変だったことや家族の大切さを伝えたい」。総社市立総社東中の横田哲也君(14)も「一緒にプレーすることで少しでも元気になってもらえれば」と話した。被災地の中学生は、地元の中学生の自宅に滞在し、4日も岡山市内で交流試合をする。5日に広島市の広島平和記念資料館を見学し、6日に東北へ戻る予定。

(吉村治彦)